



愛隣幼稚園.....

園だより

.....15.5月号

無駄の中にこそあるもの

さわやかな季節になりました。晴れた日の優しい風、その心地よさは言葉にならないくらいです。特に朝は最高です。若い木の芽と伸び始めた草の香りに朝露が運んでくれた湿り気が加わると、なんだか高原の朝のような気分になります。深呼吸をして、体中に春の風を送り込みたくなります。こんな季節は子どもと手を繋いで歩くのにもってこいです。「気持ちいいねー」の声に、子どもたちは「へー、これが気持ちいいかぁ。」と記憶します。冒頭にも“心地よさ”と書きましたが、心地いいという感覚に出会うことがないと、心地いいということはわかりません。木々の緑に濃淡があることも、春の匂いも、その中を歩いてみなければ、記憶されることはないのです。(匂いの記憶って私はいいなと思っています。)おしゃべりをしながら、春を探して歩きましょう。この2週間、愛隣幼稚園の門を、たくさんの春のプレゼントを手にした子どもたちが通過していきます。手折られたタンポポややと動き始めたダンゴムシには申し訳ないのですが、春を見つけた子どもたちはニコニコと、お日様のような笑顔です。「行き帰りは出来るだけ手を繋いで歩きましょう」とお願いしていて良かったと思います。この子どもたちが大きくなった時、春の匂いにこの時代の記憶が呼び起こされたら、それはもう幸せなことです。

3月、愛隣幼稚園の周りに多くなっていた路上駐車を心配されての電話がありました。お家の皆さんには近隣のコインパーキングを利用させていただくようお願いをしましたが、ドライブスルー方式(車は玄関脇に一時停車、子どもだけが降りるというやり方)をやってみようかということも考えました。迷いましたが、やはり私たちは大人利益より、子どもたちが受ける利益を優先することにしました。ドライブスルー方式を導入すれば車での登園が増え保護者同士が会う機会も、担任とお家の方が直接話す機会も減ってしまいます。帰りの優子先生の報告を聞く人も激減するかもしれません。大人のコミュニケーションが円滑でなくなれば、当然、子どもたちにもその影響が及ぶこととなります。うまくいっていたものが、うまくいなくなる、それは大きな損失です。そして、冒頭に書いたような春を感じる経験も減ってしまいそうです。たかが春を感じる経験かもしれませんが、子どもたちの内面が豊かになる、絶好のチャンスを逃すこととなります。<大人には都合よく便利で効率的なことが、子どもたちの受ける利益を減らしてしまう>そんなことが、今の世の中にいっぱいになっている感じがしています。大人が望む無駄のない効率的で便利な生活と、子どもの生活というものはどうやら対極にあるようです。実際子どもがいる生活は実に無駄が多く、何をするにも非効率的です。整った生活からはほど遠く朝から晩までドタバタの日々だったりします。だからのんびり春を感じながら手を繋いで歩くその時間も、効率で計られてしまいます。しかし、子どもの成長や発達には、この一見無駄で非効率的な生活が不可欠です。大人の都合で整えられた生活から子どもが獲得できるものはあまり多くありません。そこには試行錯誤する余地がなく、声なき者に気付く余裕もないからです。体は大きくなりますが、経験値は低いままで。育つべき思考力や意欲、他者と関わる力、感性も豊かにはなりにくいように思います。しかし1番の問題は身近にいる大好きな人(親)と関わる時間が減ることで、揺るがない親子の関係が作りにくくなっていることです。子どもは無駄と非効率的な生活の中で、実はたくさん手をかけてもらっています。子どもはその手からたくさんの愛情を受け取り、安心や信頼を得ていくのです。紙おむつが普及しておむつ替えの頻度が激減しました。同時に子どもたちが受けるべき利益が減ってしまいました。身近にいる大好きな親と関わる時間が減ってしまったのです。揺るがない親子の関係が形成されにくくなっていることを私たちは自覚しておく必要があります。ですから今しばらくは、無駄で非効率的と感じることを私たちは楽しんでいきましょう。大人の望む生活と対極の中にある子どもたちの生活に、私たちが寄り添っていたいと思います。